

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 28 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320017

研究課題名(和文) 戦争・災害より見た近代東アジア民衆諸宗教に関する比較史的研究

研究課題名(英文) Comparative Study on Popular Religion in Modern East Asia from the Perspective of Wars and Disasters

研究代表者

武内 房司 (TAKEUCHI, Fusaji)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：30179618

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円、(間接経費) 3,570,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀前半期に勃興した同善社・道院・カオダイ教など、中国・ベトナム・朝鮮等近代東アジアの民衆宗教運動の誕生と展開の背景を、災害と戦争の視点から検討を加えたものである。同時期に起こった旱魃・震災等の自然災害、さらには戦争によって引き起こされた社会的危機に対し、これらの民間諸宗教団体の展開した種々の慈善救済活動、遺体収集等の戦時救済活動の具体相、およびそれらの活動を支える民衆諸宗教の救済観を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This project shed light on the background and developments of the new popular religious movements in modern East Asia which were prosperous in the first of the 20th century from the perspectives of disasters and wars. By this research, we made clear that many popular religious societies in East Asia, for example, THE FELLOWSHIP OF GOODNESS (TONG SHAN SHE), WORLD SWASTIKA SOCIETY (SHI JIE HONG WAN ZI HUI) engaged in various social relief activities in the disasters of drought or flood, also they played important role in the wars by taking the body collection activities, and these activities contributed to the deepening of the sense of religious salvation.

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：基盤研究(B)

キーワード：民衆宗教 道院 同善社 カオダイ教 中国紅十字会 ホーおじさん教 仏法研究会

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1920年代以降、儒教・仏教・道教の三教一致の趨勢のもとに成立した中国の民衆宗教諸団体が、各種の慈善活動を活発に展開させつつ、全国的に急速に拡大していったことに着目した。その過程で、中国の民間宗教結社を千年王国的な宗教運動としてのみ捉えるだけでは不十分であること、すなわち、つねに来生における救済や理想社会の一挙の実現を求めて絶望的な蜂起を指向していたわけではなく、同善社やその影響を多分に受けた道院（世界紅卍字会）などのように、近代の社会状況に対応し饑饉や水害等災害時に積極的に救災活動を展開した民間宗教結社も少なくなかったものであり、むしろこうした団体を民間慈善宗教団体として新たに捉えなおし、その活動を支える宗教理念のありようやその近代的特質に目を向ける必要があると考えるに至った。

2. 研究の目的

そこで、本プロジェクトにおいては、以下の課題の解明を目指すこととした。
(1) 民間慈善宗教団体による災害時の具体的救済活動とそれを支える宗教思想の特質を明らかにしていくこと：これまで近代中国において種々の社会事業や慈善・救災活動が都市のエリート層によって担われてきたことが詳細に明らかにされてきた。しかし、こうした善堂研究においては、民間慈善宗教団体の果たした役割については必ずしも十分な光が当てられてこなかった。世界紅卍字会・同善社・悟善社などの民間慈善宗教団体の多くは五教帰一論をとらえ、キリスト教などの西洋起源の諸宗教との対話・共存を唱えたが、こうした宗教的ユニヴァーサルイズムの主張は、救災・慈善活動の展開と深い関わりを持ち、欧米宣教師や日本の民衆宗教教団と交流・接触を持つ中で登場したともいえる。こうした実践活動の展開は宗教思想の面でも新たな変容を促す契機となったと考えられる。このように、同時代的に起こった災害に対する救済活動に着目することで上記の民間慈善宗教団体の近代的特質をより鮮明に浮かび上がらせることが可能となると考えた。

(2) 近代東アジア民衆宗教諸団体の戦争への対応を検討していくこと：20世紀の東アジアにおいては多くの戦争を経験したが、それはまた民間慈善宗教系の諸団体が発展をとげる契機ともなっていた。軍閥混戦下の中国において実践した世界紅卍字会による遺体収容等の戦時救済活動、日中戦争下華北における一貫道の浸透、戦後ベトナム南部におけるカオダイ教の軍事組織化などは戦

争と民衆宗教との関わりを改めて示すものであり、その宗教・社会的背景を歴史学・宗教学の視点から明らかにしていく必要がある。

3. 研究の方法

上記の課題を進めるため、主として以下の方法に基づいて研究を進めた。

(1) 海外文書館・図書館等における史料調査

2011年度：

香港・香港大学及び科技大学図書館（研究協力者倉田明子）台湾・中央研究院台湾史研究所（研究協力者張士陽）フランス・パリ外国宣教会図書館における聖嬰会関係史料調査（研究協力者牧野元紀）中国・重慶市図書館及び上海図書館における同善社関係史料調査（研究協力者小武海櫻子）

2012年度：

フランス・パリ外国宣教会図書館における聖嬰会関係史料調査（連携研究者牧野元紀）台湾・国家図書館及び台湾大学図書館所蔵民衆宗教関係史料調査（研究協力者宮田義矢）アメリカ・カルヴィンカレッジハクマン図書館における同善社関係史料調査（小武海櫻子）台湾・中央研究院台湾史研究所所蔵関連史料調査（張士陽）中国・上海図書館所蔵紅卍字会関係史料調査及び南京紅卍字会会長陶宝晋遺族へのインタビュー調査（孫江）

2013年度：

フランス・国立文書館海外館におけるカオダイ教関係史料調査（研究代表・武内房司）スイス・バーゼル伝道会文書館 Mission21 Archives における華南民衆宗教関係文献の史料調査（研究協力者倉田明子）

(2) 海外研究者を交えた共同研究会の開催：

2012年度：

中国人民大学副教授曹新宇・台湾仏光大学教授范純武・南台科技大学通識教育中心教授を招聘し、ワークショップを開催した(2012年10月20・21日、山梨県河口湖)。

2013年度：

フランス・社会科学高等実習院教授ヴァンサン・ゴースール教授を招聘し、ワークショップ「戦争・災害より見た近代東アジアの民衆宗教」を開催した(2013年6月22日、学習院大学)。

(3) 民衆宗教団体への現地訪問・聞き取り調査：

2012年3月2日～8日、プロジェク

トメンバーにより、ベトナム・ホーチミン市、ヴィンロン市等に残る民衆宗教団体「明師道」系仏堂の調査を実施した。

2013年3月1日～8日、プロジェクトメンバーにより、同じくベトナム・メコンデルタに点在する民衆宗教「明師道」の宗教施設を調査した。

4. 研究成果

上記各国文書館・図書館等における各種アーカイブズ及び新聞・雑誌史料調査及び中国・ベトナムにおける現地調査やインタビューをつうじて、以下の諸事実を確認することができた。

- (1) 1920年代を中心とする民衆宗教諸団体の勃興が災害時の各種救済活動と密接な関係を持っていた。
- (2) こうした災害救済活動は民衆宗教諸団体の救済論においても重要な位置を占め、積極的な社会参加が個人及び社会全体の救済に繋がるとする独自の認識を生むにいたった。信徒の貢献の度合いに応じて死後に一定の位階を約束する道院の報恩システムはそうした新たな救済論を示すものである。
- (3) こうした救済観や社会实践が、類似的他の救済活動、すなわちキリスト教諸団体による救済活動や赤十字運動などに触発された面が少なくなかった。五教帰一論などの宗教的ユニヴァーサルイズムが強調されていくのはその現れであったと考えられる。

こうした史料調査の成果を踏まえ、2012年度には、中国民衆宗教史研究で優れた研究を行っている中国人民大学清史研究所副教授曹新宇、台湾・仏光大学教授范純武、台湾・南台科技大学准教授王見川、中国赤十字運動の研究を精力的に進めてきた流通経済大学の篠崎守利の各氏を招聘し、ワークショップを開催した(2012年10月20・21日、山梨県河口湖)。さらに、2013年6月22日には、近代道教の社会的変容を長年にわたって研究してきたフランス社会科学高等実習院教授ヴァンサン・ゴースール教授を招聘し、プロジェクトメンバーによる報告とあわせ、「戦争・災害から見た近代東アジアの民衆諸宗教」と題するワークショップを開催した(学習院大学)。二次にわたるワークショップでの研究報告・コメントを基礎として、研究分担者・連携研究者・研究協力者がプロジェクト期間中に蓄積してきた研究成果を合わせて、2014年3月には、有志舎より、論文集『戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教』を刊行することができた。以上のように、従来、宗教結社ないしは秘密結社として否定的に扱われることの多かった近代東アジアの民衆宗教が、戦争

や災害時の救済活動に積極的にかかわることで、社会に認知を獲得していったことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計24件)

- (1) 今井昭夫、動員と闘争の間で揺れるベトナムの宗教政策、東亜、537号、査読有、2012、98-105。
- (2) 今井昭夫、「手に鎌、手に銃」、「手に網、手に銃」：旧北ベトナム・クアンビン省の元民兵たちが語るベトナム戦争、東京外国語大学論集、84号、査読無、2012、325-340。
- (3) 孫江、関于一九二九年宿遷小刀会事件及廟産糾紛的考察、歴史研究、査読有、2012年3期、2012、61-80
- (4) 胎中千鶴、植民地台湾と相撲、世界史の研究、査読有、2012、51-54
- (5) 胎中千鶴、植民地台湾の相撲：興行と「国技」、目白大学人文学研究、8号、査読有、2012、113-131。
- (6) 孫江、戦時下の哥老会：重慶国民政府の社会統合における哥老会、愛知大学国際問題研究所紀要、139号、査読無、2012、129-156
- (7) 孫江、救贖宗教的困境：偽滿統治下の紅卍字会、学術月刊、2013年8期、査読有、2013、138-147。
- (8) 孫江、The Predicament of a Redemptive Religion : The Red Swastika Society Under the Rule of Manchukuo, *Journal of Modern Chinese History*, 7(1), 査読有、2013、108-126。
- (9) 孫江、Continuity and Discontinuity : The Narratives of Huang di in the History Textbooks During the Early 20th Century, *Frontiers of History in China*, 8(2), 査読無、2013、176-201。
- (10) 今井昭夫、ベトナムにおける抗米救国抗戦の記憶：ベトナム国内・退役軍人たちの聞き取り調査からの素描、東京外大東南アジア学、18号、査読無、2013、98-105。
- (11) 宮田義矢、扶乩とスピリチュアリズム、スピリチュアリティの宗教史(下)(リトン)、査読無、2013、359-387。
- (12) 小武海櫻子、同善社の慈善事業：合川会善堂慈善会の軌跡を中心に、東洋学報、査読有、94巻1号、2013、59-87
- (13) 倉田明子、洪秀全と洪仁玕、講座東アジアの知識人1(有志舎)、査読無、2013、154-169。
- (14) 島園進、中山みき、講座東アジアの知識人1(有志舎)、査読無、2013、

- 186-203.
- (15) 倉田明子、中国キリスト教史基礎文献・所蔵機関案内、歴史評論、765号、査読有、2014、68-76
- (16) 今井昭夫、ベトナム中部クアンチ省における抗仏・抗米闘争の記憶：退役軍人等への聞き取り調査から、東京外大東南アジア学、19号、査読無、2014、147-161.
- (17) 小武海櫻子、民間教派から慈善団体へ『洞冥宝記』の災害観にみる同善社の救世思想、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、63-85.
- (18) 宮田義矢、世界紅卍字会の慈善観、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、86-114.
- (19) 胎中千鶴、植民地台湾の震災—一九三五年新竹・台中大地震にみる被災地民衆の宗教空間、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、157-178.
- (20) 孫江、戦場の遺体：「上海事変」における紅卍字会の遺体埋葬活動と大本教、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、180-198.
- (21) 倉田明子、日本占領期香港におけるカトリックの救済活動、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、220-242.
- (22) 趙景達、植民地朝鮮における仏法研究会の教理と活動、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、243-264.
- (23) 武内房司、先天道からカオダイ教へ：ベトナムに根づく中国近代の民衆宗教、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、265-289.
- (24) 今井昭夫、「ホーおじさん教」と戦争の記憶：近年のベトナム北部の民衆宗教、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教(有志舎) 査読無、2014、290-309.

〔図書〕

- (1) 武内房司、日記に読む日本の近代5：アジアと日本、吉川弘文館、2012、272頁
- (2) 孫江、近代中国の宗教・結社と権力、汲古書院、2012、450頁
- (3) 趙景達、近代朝鮮と日本、岩波書店、2012、288頁
- (4) 趙景達、植民地朝鮮と日本、岩波書店、2013、260頁
- (5) 孫江、亞洲概念史研究、三聯書店、2013、270頁
- (6) 武内房司、戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教、有志舎、2014、313頁
- (7) 孫江、東アジアにおける近代知の空間の形成、東方書店、2014、433頁

〔学会発表〕

- (1) 胎中千鶴、日本統治期台湾における相撲、国立台湾大学図書館国際学術シンポジウム、国立台湾図書館、2013年3月16日
- (2) 武内房司、ベトナムに根づく中国近代の民衆宗教、学習院大学史学会、2013年6月8日

〔雑誌論文〕(計 24 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

〔図書〕(計 7 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：30179618

(2) 研究分担者

今井 明夫 (IMAI AKIO)
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号：20203284
孫 江 (Sun Jiang)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授
研究者番号：40329529
胎中 千鶴 (TAINAKA CHIZURU)
目白大学・外国語学部・教授
研究者番号：30550818
趙 景達 (Cho Kyengdal)
千葉大学・文学部・教授

研究者番号：70188499

(3)連携研究者

島園 進 (SHIMAZONO Susumu)
東京大学大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：20143620
牧野元紀 (MAKINO Motonori)
東洋文庫研究員
研究者番号：80569187

(4)研究協力者

張 士陽 (Cho Shiyou)
早稲田大学非常勤講師
倉田 明子 (Kurata Akiko)
金沢大学非常勤講師
宮田 義矢 (Miyata Yoshiya)
専修大学非常勤講師
小武海櫻子 (Komukai Sakurako)
専修大学非常勤講師